

GREEN X EXPO 2027まであと1年

脱炭素社会推進へ具体的な取組を

横浜市会議員（南区） 仁田まさとし

魅力あるEXPOに

目指していますが、EV普及がさらに進む27年以降を見据え、データに基づいた最適配置が不可欠です。公道や公共施設がすべきと主張しました。

少ない地域では民有地の活用も視野に入れ、充電インフラの充実に向けて市が積極的に役割を果たすべきと主張しました。

3月2日の予算特別委員会議局別審査で、脱炭素利用者に目線に立った情報提供の充実を求めました。さらに、将来のパネル大量廃棄時代を見据え、導入だけでなくリサイクル体制の構築が急務と訴えました。質疑に対し、平原副市長から「官民連携の資源循環推進プラットフォームにおいて既に議論を始めており、本市が所有するパネルを

EXPOのシャトルバス輸送に関しては主要駅、臨海部の魅力的なコンテナツや横浜トリエンナーレと連携し、来場者の回遊性を高める取組を訴えました。平原副市長からは「多くの方々が文化芸術に親しみながら環境と共生するグリーン社会について考える機会をEXPOを通じて提供したい」との力強い答弁がありました。

大量廃棄見据え

リサイクルを

太陽光パネルの導入促進とリサイクルについて、市が所有するパネルを

度との重複利用も含め、板ガラスにリサイクルする取り組みを試行的に実施する予定」との、具体的な答弁を得ました。

また、廃棄シリコンと排ガス中の二酸化炭素を反応させてギ酸を生成する横浜国立大学の先進的な研究を紹介し、新技術の動向を注視した体制づくりを要望しました。次世代型太陽電池についても、ペロブスカイト型や高効率なタンデム型など広い視野を持ち、新技術の率先導入に取り組みよう求めました。

そこで、他都市の車内天井への遮熱シート貼付等の事例を挙げ、消費電力抑制に向けた実証の場にすべきと提案しました。

文化芸術の視点を取り入れ、市が培ってきた魅力



仁田まさとし プロフィール

- 政策経営・総務・財政委員会 副委員長
- 基地対策特別委員会
- ◇施政方針は「動く、創る、変える。」
- ホームページ <http://www.nitta-m.jp/>
- ライン 情報発信中

EXPOと文化芸術創出を全市に波及させるため、関係局が密に連携して準備を進めるよう取り組まします。